

前橋空襲追悼碑



基本情報

所在地：比刀根橋 北側（旧「比刀根橋防空壕」跡地）
 住所：群馬県前橋市住吉町2-1-1
 （JR前橋駅 徒歩25分）
 連絡先：個人であり記載せず
 建立者：前橋市戦災被爆者遺族会
 建立年：昭和51年4月5日

碑文

昭和二十年八月五日前橋空襲の犠牲となり
 死歿せる一般民間市民の群霊五百三十五名に
 及ぶ当時最も爆撃激しく犠牲者多き比刀根橋
 防空壕跡地に記念碑を建立不生不滅の実想の
 中永遠の平和を祈念し遺族有志永年の悲願を
 実成す

昭和五十一年四月五日
 前橋市戦災被爆者遺族会

前橋空襲戦災犠牲者慰霊式典



開催概要（平成22年度）

歳時名：前橋空襲戦災犠牲者慰霊式典
 会場：比刀根橋 西側（旧「比刀根橋防空壕」跡地）
 （JR前橋駅 徒歩25分）
 日時：平成22年8月5日（木） ※毎年8月5日開催
 参列者数：50人
 連絡先：個人であり記載せず

式次第（平成22年度）

1. 生涯学習奨励員 開会の宣言
2. 自治会長 あいさつ
3. 町民による前橋空襲体験談（本年度は開会宣言で発表）
4. 追悼文朗読 子供育成会児童 群馬大学附属小学校六年
5. 千羽鶴献納及び献花

式辞（平成22年度）

自治会長あいさつ

本日はお暑い中、「前橋空襲犠牲者追悼」式に大勢の皆様のご参加を頂き、まことにありがとうございます。

皆様もご存じのとおり今から65年前の8月5日、前橋はB-29爆撃機92機による爆撃を受け、535人も尊い命が失われました。

特に我が町内を中心とした地域は、集中的な爆撃による死者も多く、私共の町内においても多くの方が亡くなられております。ここに喪心より哀悼の誠を捧げます。

なぜ人々は争うのか、殺し合うのか、そして平和、この言葉は過去何千回も何万回も繰り返し語られてきました。何と空しいことか、またここで同じ言葉を繰り返さなければなりません。いや私共の生ある限り繰り返さなければならない、これが現実、これが与えられた使命なのではないでしょうか。

いま我が国は様々な課題に直面しております。平和という言葉の定義も人様々ですが、平和のための手段はないのでしょうか。侵略されないための準備の拡大など、戦うための手段ばかりが議論されている気がしております。

二度と戦争など繰り返してはならない。このことは三百万人を超える貢い犠牲の上にとった貴重な教訓なのです。それは人間の尊厳、命の尊さにほかなりません。

今こそ私たちは歴史から学び、過去を検証しそして未来を目指すべきではないでしょうか。

平和への願い、それは人と人を結ぶ絆、まず日常的な私共の暮らしの中で近隣の人々との絆を大切にすること。それは単なる言葉ではなく人を思いやる行為なのです。いま私たちからの平和へのメッセージとして、ここにご挨拶いたします。

慰霊塔



基本情報

所 在：平和公園
 住 所：群馬県伊勢崎市八坂町
 （東武鉄道 新伊勢崎駅 徒歩10分）
 連 絡 先：伊勢崎市 都市計画部 公園緑地課 0270-24-5111（代表）
 建 立 者：伊勢崎佐波連合郷友会
 建 立 年：昭和36年10月5日

※一般戦災死没者を含む

碑 文

なし



太田市戦没者等追悼式



開催概要（平成22年度）

歳時名：太田市戦没者等追悼式 ※一般戦災死没者を含む

会場：太田市新田文化会館 エアリスホール

（東武鉄道 木崎駅より 車7分）

日時：平成22年10月2日（土） ※例年10月第1土曜日開催

参列者数：約700人

連絡先：太田市福祉こども部 社会支援課 0276-47-1111（代表）

式次第（平成22年度）

1. 開 式
2. 拝 礼
3. 国 歌 斉 唱
4. 黙 と う
5. 詩 の 朗 読 …「私の半生」朗読劇『風』
6. 式 辞 … 太田市長
7. 追 悼 の 辞 … 太田市議会議長、太田市遺族会会長、群馬県知事
8. 献 花
9. 合 唱 … おおた芸術学校附属合唱団 『コールエンジェル』
10. 閉 式

式 辞（平成22年度）

本日ここに、戦没者並びに戦災被爆者のご遺族及び多数のご来賓、そして多くの市民の皆様のご参列をいただき、太田市戦没者等追悼式を挙げるにあたり、太田市を代表し式辞を申し上げます。

先の大戦の終結から六十五年という長い歳月が過ぎ去りました。苛烈を極めた戦いの中で、多くの方々が危地に赴き、再び郷里に戻る事なく、祖国の安泰と繁栄を思い、家族を案じつつ散華いたしました。また、銃後のこの地においても、多くの方が国土防衛に身を捧げ、空爆のため犠牲となられました。さらに、遠くシベリアの地において、抑留生活を余儀なくされ、異国で亡くなられた方もおられました。

私たちが現在享受している平和と繁栄は、戦没者の方々の尊い犠牲の上に築かれたものであり、また、ご遺族皆様方のたゆみない努力の賜物であります。

私たちは、二度と同じ過ちを繰り返さぬよう、過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、次の世代に継承していかなければなりません。

今後も市民の叡智と活力を結集して、潤いと安らぎのある郷土の実現のため、全力を尽くしていくことを改めてお誓い申し上げます。

終わりに、戦没者並びに戦災被爆者のご遺族の皆様、今なお変わることのない深い苦しみ、悲しみに思いを致すとともに、ご遺族並びにご参列の皆様のお祈りを心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十二年十月二日

太田市長 清水 聖義

太田市戦災被爆者慰霊記念の碑



基本情報

所 在：太田中央公園（旧太田市民会館前）
 住 所：群馬県太田市飯田町818
 （東武鉄道 太田駅 徒歩5分）
 連 絡 先：太田市 都市政策部 花と緑の推進課 0276-47-1111（代表）
 建 立 者：太田市戦災被爆者遺家族の会、慰霊記念の碑建設委員会
 建 立 年：昭和52年8月10日

碑 文

【表】

太田市戦災被爆者慰霊記念の碑
 太田市長 戸澤久夫書

安らかに
 この国の永遠の
 平和を祈念して

建設大臣
 長谷川四郎書

【裏】

趣意書

わが太田市は、太平洋戦争の末期、昭和二十年二月十日、二月十六日、二月二十五日、四月四日、七月二十八日、八月十四日と数度にわたって、はげしい空襲に見舞われ その度毎に数多くの死傷者が続出したが、現在の太田市在住の遺家族数は、五十五家族、その被爆犠牲者壱百弍名に及んでいる。

ところで、戦後における国の援護の実状は、民間の被爆犠牲者には、その処遇も行われないまま、すでに三十有余年の年月を経てきたのである。そのため、本市鳥山に存在する大越福は、昭和四十五年十二月、太田市戦災被爆者遺家族の会を結成し、その会長となって 私財を投じて国会等に対し、強力な陳情活動を続けたのである

時あたかも今年昭和五十二年は、被爆犠牲者の三十三回忌にあたり、市当局並びに市民各層の協力のもと 太田市戦災被爆者慰霊祈念の碑の建設となったのである。

このことは、この国の永遠の平和をこいねがう被爆遺家族のせめてものねがいであり、こゝに記してその由来とする所以である。

昭和五十二年八月十日
 広田良撰文